

# 臨床口腔病理

責任者名：浅野 正岳

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

## ◆担当教員

浅野 正岳(病理学 教授)

武市 収(歯科保存学Ⅱ 教授)

萩原 芳幸(歯科補綴学Ⅲ 准教授)

井出 文雄(病理学 兼任講師)

岩田 有弘(病理学 兼任講師)

福井 怜(病理学 助教)

角田 麻里子(病理学 助教)

山本 安希子(病理学 助教)

## ◆一般目標 (GIO)

臨床現場への応用力を身につけるため、口腔内に発生する種々の病変における臨床所見および肉眼的、組織学的所見など基本的な事項について学ぶ。

## ◆到達目標 (SBOs)

- ・口腔病理学の概略、意義について説明できる。
- ・口腔粘膜病変の病態について説明できる。
- ・嚢胞性病変、口腔領域特有の腫瘍の病態について説明できる。
- ・唾液腺病変の病態について説明できる。

## ◆評価方法

成績は第1回平常試験、第2回平常試験の総合評価とする。

平常試験は試験実施後の講義に解説を加える。

## ◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
浅野 正岳	水曜日 17:00～18:00 1号館2階209号室	asano.masatake@nihon-u.ac.jp	
武市 収	講義終了後に対応する	takeichi.osamu@nihon-u.ac.jp	
萩原 芳幸	講義終了後に対応する	hagiwara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp	
井出 文雄	講義終了後に対応する		
岩田 有弘	講義終了後に対応する		

福井 怜	水曜日 17:00～18:00 1号館2階220号室	tooyama.rei@nihon-u.ac.jp	
角田 麻里子	水曜日 17:00～18:00 1号館2階220号室	ootsu.mariko@nihon-u.ac.jp	

#### ◆授業の方法

指定した教科書のどこに何が記載されているのかを明確に示しつつ、板書、スライドを併用して授業を進める。また、必要に応じてプリントを配布し、理解を深めさせる。

#### 【実務経験】

浅野正岳：病理学講座における教員歴28年。病理診断をしている歯科医師の立場から、炎症、変性、循環障害など、身体に変化をもたらす全ての病態を理解した上で、口腔領域の病態への理解を深めてもらいたいと考えている。

井出文雄：口腔病理診断経験が40年以上。病理診断をしている歯科医師の立場から、炎症、変性、循環障害など、身体に変化をもたらす全ての病態を理解した上で、口腔領域の病態への理解を深めてもらいたいと考えている。

福井 怜：病理学講座における教員歴4年。病理診断をしている歯科医師の立場から、炎症、変性、循環障害など、身体に変化をもたらす全ての病態を理解した上で、口腔領域の病態への理解を深めてもらいたいと考えている。

大津麻里子：病理学講座における教員歴3年。病理診断をしている歯科医師の立場から、炎症、変性、循環障害など、身体に変化をもたらす全ての病態を理解した上で、口腔領域の病態への理解を深めてもらいたいと考えている。

#### ◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	新口腔病理学 第2版	下野 正基、高田 隆 ほか	医歯薬出版	2018
参考書	病理学総論にもとづく口腔病理学 第2版	井上 孝、田中 昭 男、長谷川博雅 ほか	永末書店	2018
参考書	みて学ぶ口腔病理 第3版	小宮山 一雄 ほか	砂書房	2008

#### ◆DP・CP

##### ・DP3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

##### ・CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断力を育成する。

#### ◆準備学習(予習・復習)

事前に教科書、参考書を読んで、授業内容の目的を理解しておく。

病理組織形態についてはアトラスを参照すること。

#### ◆準備学習時間

各々講義時間相当を充てて授業内容の予習と復習を行うこと。

#### ◆全学年を通しての関連教科

基礎病理（3年前期）

基礎病理実習（3年前期）

臨床口腔病理実習（3年後期）

#### ◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.10	3	1. 象牙質・歯髄複合体の病変1 1)象牙質・歯髄複合体と いう考え方 (1)発生と機能 (2)臨床的重要性 2)加齢変化 (教)pp.48-66	・象牙質・歯髄複合体の概念について説明できる。 ・象牙質・歯髄複合体の歯科治療における重要性を説明できる。 ・象牙質・歯髄の加齢変化について説明できる。	角田 麻里子	E-2-4)-(3) 炎症 E-3-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療
2		9.10	4	1. 象牙質・歯髄複合体の病変2 3)歯内療法序論 (教)pp.48-78 pp.102-109	・象牙質・歯髄複合体の病変に関連した炎症について説明できる。 ・象牙質・歯髄複合体の病変に対する治療の概略を説明できる。	武市 収	E-2-4)-(3) 炎症 E-3-3)-(2) 歯髄・根尖性歯周疾患の診断と治療
3		9.17	3	2. インプラントの病理1 1)序論 (教)pp.120-131	・歯科インプラント治療の概略を説明できる。	萩原 芳幸	E-3-4)-(3) デンタルインプラント
4		9.17	4	2. インプラントの病理2	・歯科インプラント治療における炎症反応および修復について説明でき	岩田 有弘	E-3-4)-(3) デンタルインプ

				2)治療に伴う組織変化 3)治療に伴う創傷治癒 (教)pp.120-131	る。 ・歯科インプラント治療に伴う創傷の治癒過程について説明できる。		ラント
5		9.24	3	3. 口腔粘膜疾患 1 1)水疱性疾患 (1)天疱瘡 (2)類天疱瘡 2)赤色病変 (1)多形滲出性紅班 (2)エリテマトーデス (教)pp.143-148	・口腔内に生じる粘膜病変の多様性について説明できる。 ・自己免疫疾患としての天疱瘡、類天疱瘡を説明できる。 ・口腔内の赤色病変について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患
6		9.24	4	3. 口腔粘膜疾患 2 3)黒色病変 (1)メラニン沈着症 (2)色素性母斑 (3)悪性黒色腫 4)舌・口唇炎 (1)正中菱形舌炎 (2)肉芽腫性口唇炎 (教)pp.156-161	・口腔内の黒色病変について説明できる。 ・頻度の高いメラニン沈着症を説明できる。 ・メラニン産生細胞を由来とする色素性母斑と悪性黒色腫の違いを説明できる。 ・舌や口唇に生じる炎症性疾患について説明できる。また関連する症候群についても説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患
7		10.1	3	3. 口腔粘膜疾患 3 5)白色病変 (1)扁平苔癬 (2)白板症 (3)口腔カンジダ症 6)ウイルス感染症 (1)HIV (2)ヘルペス (3)麻疹 (4)手足口病 7)細菌感染症 (教)pp.152-155 pp.162-168	・口腔内に生じる白色病変の多様性について説明できる。 ・扁平苔癬と白板症を学びそれぞれの臨床所見などについて説明できる。 ・口腔に生じるカンジダ症について説明できる。 ・口腔内に症状を呈するウイルス性感染症について説明できる。 ・全身状態との関連のなかで口腔内症状を説明できる。 ・口腔内の梅毒、結核あるいはMRSA などについて説明できる。 ・特異性炎の組織像と臨床像につい	浅野 正岳	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患

					て説明できる。		
8		10.1	4	3. 口腔粘膜疾患 4 8)潰瘍性病変 (1)慢性再発性アフタ (2)ベーチェット病 (3)壊死性潰瘍性口内炎 (4)薬物性口内炎 9)歯肉増殖症 (教)pp.149-151 pp.88-89	・口腔に発生する潰瘍性病変を説明できる。 ・ベーチェット病を説明できる。 ・特殊な口内炎について説明できる。 ・歯肉増殖症の病因，対処法を説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患
9		10.8	3	5. 口腔癌・前癌病変 1 1)前癌病変 (1)白板症 (2)紅板症 (3)上皮内癌 (教)pp.169-181	・前癌病変の意味と種類などについて口腔癌との関連において説明できる。 ・上皮性異型性の意味について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患
10		10.8	4	5. 口腔癌・前癌病変 2 2)口腔癌 (教)pp.169-181	・口腔に発生する癌について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患
11		10.15	3	6. 口腔領域の嚢胞 1 1)歯源性嚢胞 (1)発育性嚢胞 (2)炎症性嚢胞 (教)pp.182-188	・嚢胞とはどのような疾患か説明できる。 ・歯の発育に関連して生じる嚢胞と炎症性に生じる嚢胞の違いについて説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(5) 嚢胞
12		10.15	4	6. 口腔領域の嚢胞 2 2)非歯源性嚢胞 (1)顎骨内に発生する非歯源性嚢胞 (2)軟組織に発生す	・口腔内に発生する非歯源性嚢胞について説明できる。 ・非歯源性嚢胞の多様性について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(5) 嚢胞

				る非歯原性嚢胞 (教)pp.189-195			
13		10.22	3	7. 歯原性腫瘍 1 1)腫瘍総論 2)WHO 分類 3)良性腫瘍 (1)エナメル上皮腫 (教)pp.196-211	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍について説明できる。</li> <li>・歯原性腫瘍の WHO 分類について説明できる。</li> <li>・エナメル上皮腫の組織学的特徴と細分類について説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
14		10.22	4	7. 歯原性腫瘍 2 (2)石灰化上皮性歯原性腫瘍 (3)腺腫様歯原性腫瘍 (4)歯牙腫 (教)pp.196-211	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰化上皮性歯原腫瘍, 腺腫様歯原性腫瘍の組織学的特徴を説明できる。</li> <li>・上皮成分と歯原性外胚葉性間葉成分の違いについて説明できる。</li> <li>・歯牙腫について説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
15		10.29	3	7. 歯原性腫瘍 3 (5)エナメル上皮線維腫 (6)セメント芽細胞腫 4)悪性腫瘍 (教)pp.196-211	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セメント芽細胞腫の組織学的特徴を説明できる。</li> <li>・歯原性悪性腫瘍を説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
16		10.29	4	8. 非歯原性腫瘍 1)乳頭状・疣贅性病変 2)メラニン色素沈着 3)線維性病変 4)血管系腫瘍 5)末梢神経系腫瘍 6)肉腫 7)その他の腫瘍 (教)pp.239-256	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内に生じる乳頭腫や線維腫などの病態について説明できる。</li> <li>・メラニン産生細胞に由来する腫瘍である色素性母斑や悪性黒色腫について説明できる。</li> <li>・血管腫の組織像を説明できる。</li> <li>・神経鞘とその間葉組織からなる腫瘍について説明できる。</li> <li>・口腔に発生する肉腫について説明できる。</li> <li>・白血病の口腔内病変について説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(8) 唾液腺疾患

17		11.5	3	「第1回平常試験」 平常試験の解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義項目（第1回～16回）および実習項目（第1回～第3回）の範囲で試験を行い、理解度を確認する。</li> <li>・解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。</li> </ul>	浅野 正岳	
18		11.5	4	9. 唾液腺腫瘍 1 1) 唾液腺の構造と機能 2) 良性腫瘍 (1) 多形腺腫 (2) 筋上皮腫 (教)pp.257-261	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常唾液腺の組織像と機能について説明できる。</li> <li>・良性腫瘍である多形(性)腺腫, 筋上皮腫の臨床的事項および組織像について説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(8) 唾液腺疾患
19		11.12	3	9. 唾液腺腫瘍 2 (3) ワルチン腫瘍 (4) 基底細胞腺腫 3) 悪性腫瘍 (1) 腺房細胞癌 (2) 粘表皮癌 (教)pp.261-266	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良性腫瘍であるワルチン腫瘍および基底細胞腺腫の特徴について説明できる。</li> <li>・唾液腺の悪性腫瘍として腺房細胞癌や粘表皮癌の形態像と臨床的特徴を説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(8) 唾液腺疾患
20		11.12	4	9. 唾液腺腫瘍 3 (3) 腺様嚢胞癌 (4) 上皮筋上皮癌 4) 非上皮性腫瘍 (教)pp.264-270	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篩状の特徴的な腫瘍胞巣を形成する腺様嚢胞癌について説明できる。</li> <li>・腫瘍性筋上皮細胞の性質について説明できる。</li> <li>・唾液腺原発の非上皮性腫瘍について説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(8) 唾液腺疾患
21		11.19	3	10. 唾液腺の非腫瘍性病変 1 1) 退行性・進行性病変 2) 唾液腺の炎症性疾患 (教)pp.271-282	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唾液腺の老人性変化, 退行性病変を説明できる。</li> <li>・唾液の排泄障害により起こる粘液嚢胞についてその組織像を含めて説明できる。</li> <li>・唾液腺炎の発症の原因, 種類を説明できる。</li> </ul>	浅野 正岳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
22		11.19	4	10. 唾液腺の非腫瘍性病変 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己免疫異常を理解し, 唾液腺を破壊するシェーグレン症候群について</li> </ul>	浅野 正岳 山本 安希	E-2-4)-(8) 唾液腺疾患

				3)自己免疫疾患 4)口腔乾燥症 (教)pp.271-282	て説明できる。 ・類縁疾患であるリンパ上皮性病変や Mikulicz 病について説明できる。 ・口腔乾燥症について説明できる。	子	
23		11.26	3	11. 顎骨および顎関節の病変 1 1)線維骨性病変 (1)線維性異形成症 (2)骨形成線維腫 2)骨形成性病変 3)稀な病変 (教)pp.212-228	・線維性骨異形成症や骨形成線維腫, セメント質異形成症などの病態について説明できる。 ・外骨症や良性・悪性骨腫瘍について説明できる。 ・好酸球性肉芽腫などの稀な病変について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
24		11.26	4	11. 顎骨および顎関節の病変 2 1)顎骨の病変 2)顎関節の病変 (教)pp.229-238	・顎骨骨髓炎の種類や成り立ち, ビスホスフォネートなどによる顎骨壊死や顎関節における病変などについて説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患
25		12.3	3	12. 免疫応答に関連した病変 1 1)金属アレルギー 2)免疫不全症候群 (教)pp.283-291	・歯科治療で頻用される金属とアレルギー性疾患の関連について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患
26		12.3	4	12. 免疫応答に関連した病変 2 3)自己免疫疾患 (教)pp.283-291	・自己免疫疾患について説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患
27		12.17	3	13. 全身と口腔 1 1)感染症 2)内分泌障害 (教)pp.312-322	・全身性の感染症における口腔内症状を説明できる。 ・内分泌異常などの全身性疾患における口腔内症状を説明できる。	浅野 正岳	E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患
28		12.17	4	13. 全身と口腔 2	・ビタミン欠乏による口腔内症状を	浅野 正岳	E-2-4)-(10)



				3)栄養障害 4)血液疾患 (教)pp.312-322	説明できる。 ・血友病や紫斑病における口腔内症状について説明できる。		口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患
29		12.24	3	14. 口腔領域と関連した症候群 1)McCune-Albright症候群 2)基底細胞母斑症候群 3)vonRecklinghausen症候群 (教)pp.331-340	・前期で学んだ染色体異常と遺伝子異常の違いについて説明できる。 ・全身的な症状の一部として口腔顎顔面領域にみられる特徴と病理組織像について説明できる。	福井 怜	E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患
30		12.26	3	「第2回平常試験」 平常試験の解説	・講義項目（18～28回）の範囲で試験を行い，理解度を確認する。 ・解説により授業内容の理解度の確認及び習熟を図る。	浅野 正岳	

